



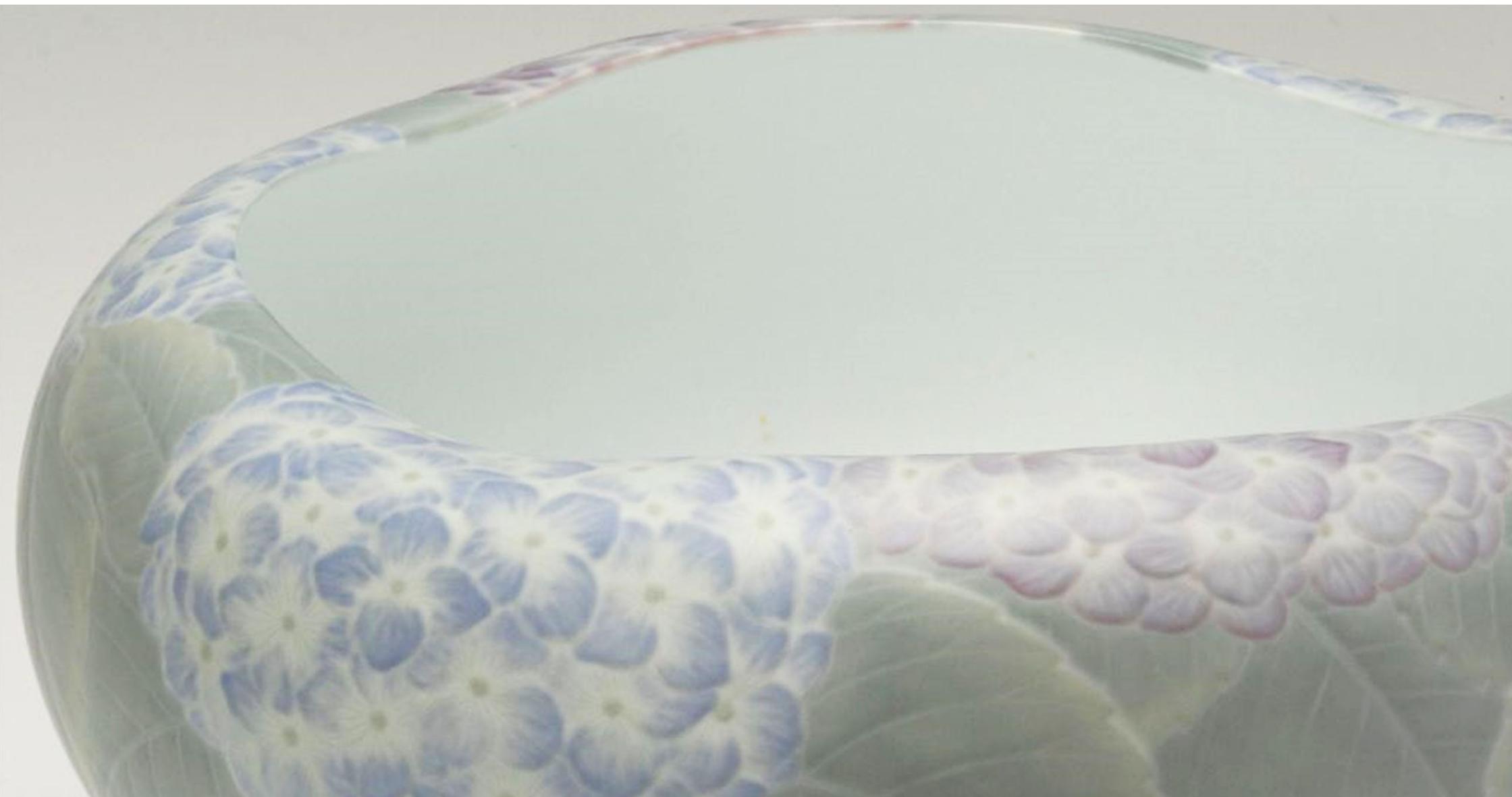
齊藤勝美 葆光彩磁紫陽花文花器 平成20年（2008） 33.1×17.3cm 佐野市立吉澤記念美術館寄託

濃密な色彩を覆う葆光釉

紫陽花のまるい形に沿うように、口縁が曲線を描き、波打つような造形になっています。2000年以降の齊藤は、器形に植物を思わせる有機的造形を導入しています。鑄込みではなく、ろくろ・削り成形です。

濃く明瞭な彩磁の色彩を葆光釉がやわらげ、落ち着いた上品な印象になっています。「葆光釉」は艶消し・半透明の釉薬で、板谷波山に倣った名称です。

波山作品にも散見される紫陽花は、初期から齊藤が取り組んできた重要な花の一つです。



齊藤勝美 葆光彩磁紫陽花文花器 佐野市立吉澤記念美術館寄託 (部分)



齊藤勝美 葆光彩磁紫陽花文花器 佐野市立吉澤記念美術館寄託 (部分)